

新刊児童図書リスト

(平成 29 年度版)

平成 30 年 4 月
広島県立図書館

第 29 号



☞リストについて

- ・ このリストに掲載した絵本は、平成 29 年 1 月から同年 12 月までの間に出版されたものです。また、児童図書は平成 27 年 12 月から平成 29 年 5 月までの間に出版された読み物です。
- ・ このリストの各テーマは、本を紹介しやすいように便宜上設けたものです。他のテーマに分類できるものもありますが、御了承ください。
- ・ 【 】の中には、県立図書館の資料分類のための請求記号です。E は絵本、C は知識の絵本を表します。
- ・ このリストで取り上げた本は、全て広島県立図書館で借りることができます。また、お近くの公立図書館を通して借りることもできますので、御利用ください。

絵本

◆ 赤ちゃん

『があちゃん』 かつやかおり／さく，福音館書店【E カ】

「があちゃん があがあ こんにちは いっしょに おふろに はいろうか」。アヒルのおもちゃのがあちゃんがお風呂を楽しむ様子を，明るい色合いで描いており，お風呂の温かさや気持ち良さが伝わってきます。

『よ・だ・れ』 小風さち／文，及川賢治／絵，福音館書店【E コ】

赤ちゃんは，怒っても泣いても笑っても，「よだれ」が出ます。くるくる変わる赤ちゃんの表情と「よだれ」を描いた絵本です。

文は，「わにわに」シリーズの小風さちさんで，「たあたあたあ」や「ぶくぶくぶう」など独特の擬音語でよだれが出る様子を表現しています。

『ひよこさん』 征矢清／さく，林明子／え，福音館書店【E ヲ】

ひよこさんが一人で野原を歩いているうちに，日が暮れてしまいます。そのまま眠ってしまったひよこさんの傍に，探しに来たお母さんが優しく寄り添います。

「こどものとも0. 1. 2」創刊時の編集者でもある征矢清さんと『はじめてのおつかい』の林明子さん夫婦の作品です。

◆ 科学

『ちいさなかえるくん』 甲斐信枝／さく，福音館書店【E カ】

かえるくんが，獲物を追ったり，獲物としてへびに追われたりする様子を，間近で観察しているような構図で写実的に描いています。野原に咲いたんぽぽなどの草花も色鮮やかで，春の雰囲気伝えていきます。

『さかなのたまご：いきのこりかけたがいさくせん』 内山りゅう／写真・文，ポプラ社【C 4】

魚は，さまざまな方法で卵を残そうと工夫しています。かっこうのように「托卵」したり，貝の中に卵を産みつけたり。

魚たちの「いきのこりかけたがいさくせん」を，迫力ある写真で紹介します。

『このあいだになにがあった？』 佐藤雅彦／作，ユーフラテス／作，福音館書店【E サ】

「毛がもこもこの羊」と「短い毛の羊」，「おたまじゃくし」と「かえる」など関連する写真が2枚並び，その間には，一言「このあいだにはなにがあった？」と書いています。シンプルな作りの絵本で，推理力が試される仕組みになっています。

◆ 動物

『マスターさんとどうぶつえん』アーノルド・ローベル／さく，こみやゆう／やく，好学社【E ㊦】

マスターさんと、動物園の動物たちはとても仲良しです。マスターさんとずっと一緒にいたい動物たちは、マスターさんの住むマンションに行くために、ある夜動物園からこっそり抜け出してしまいました。

『ウサギのすあなにいたのはだあれ？』ジュリア・ドナルドソン／文，ヘレン・オクセンバリー／絵，とたによろこ／訳，徳間書店【E ㊧】

ある日、ウサギが自分の巣穴に戻ると、中から大きな声がありました。「おいらははらぺこぴょんがぶりん。ウサギのみみがだいこうぶつ。ちょきんときってくっちゃうぞ」。怖がるウサギから話を聞いたネコは、「はらぺこぴょんがぶりん」を退治するために巣穴に向かいますが…。

『サイモンは、ねこである。』ガリア・パースタイン／作，なかがわちひろ／訳，あすなろ書房【E ㊨】

サイモンという名前のねこが「ぼくたち、にてますね」と話しかけたのは、ライオンやトラなど、ネコ科の大きな動物たちでした。するとライオンたちは、ねこなんかと一緒にされたくない、自分がいかにすごいか自慢し始めました。

『いえすみねずみ』ジョン・バーニンガム／作，谷川俊太郎／訳，BL出版【E ㊩】

男の子の家にこっそり住んでいるねずみの大家族。うっかり姿を見られてしまったため、お父さんがねずみ退治の業者を呼んでしまいました。ねずみがかわいそうになった男の子は、家から逃げるよう、ねずみに宛てて手紙を書くことにしました。

◆ 人と生き物

『ヒルダさんと3びきのこざる』クエンティン・ブレイク／文，エマ・チチェスター・クラーク／絵，むらおかみえ／訳，徳間書店【E ㊪】

ある日、3びきのこざるは、ヒルダさんに留守番を頼まれました。退屈した3びきは、戸棚のものをばらまいたり帽子の飾りをむしったりして、部屋中を恐ろしいほど散らかしました。そこへ、ヒルダさんが帰ってきましたが…。

退屈を我慢できない子供の本質を描くとともに、いたずらを咎めながらも愛情をもって子供の存在を受け止める大人の姿をユーモラスに描いています。

『ハッピーハンター』ロジャー・デュボアザン／さく，安藤紀子／やく，ロクリン社【E ㊫】

動物が大好きなボビンさんは、勇ましいハンターの格好をして狩りに行くことにしました。野原に着き、猟銃でうさぎに狙いを定めました。しかし、うさぎは気付きません。そこで、ボビンさんはわざと大きな咳払いをしてうさぎを逃がしました。

実話をもとにして、人と動物たちの交流を描いています。

『ちいさなうさぎのものがたり』アルヴィン・トレッセルト／ぶん，レナード・ワイスガード／え，安藤紀子／やく，ロクリン社【E 1】

お母さんうさぎは、子うさぎに他の動物や人間に用心するよういつも言い聞かせていました。ところが、子うさぎは農夫の畑に入って罌にかかってしまいます。

野生の子うさぎが成長していき、新しい命を育むまでをセピア色の絵で描いています。

◆ **ドキドキ**

『ゆめみるじかんよこどもたち』ティモシー・ナップマン／文，ヘレン・オクセンバリー／絵，石井睦美／訳，BL出版【E 7】

アリスとジャックの姉弟が庭で遊んでいると、森の奥から変な声が聞こえてきました。アリスが怖がるジャックを引っ張り森に入ると…。

タイトルの『ゆめみるじかんよこどもたち』は、意外な動物が歌った子守歌の歌詞です。

『魔女たちのパーティー』ロンゾ・アンダーソン／文，エイドリアン・アダムズ／絵，野口絵美／訳，徳間書店【E 7】

ハロウィンの夜。ジャックは、空を飛ぶ本物の魔女を見つけました。魔女を追いかけて森に入ると、大勢の魔女や鬼がパーティーの準備をしていました。ジャックは、こっそりその様子を見ていましたが、鬼に見つかってしまいます。

奥田継夫が訳した1981年出版の絵本と翻訳が異なり、登場人物の気持ちがより率直に書かれています。

◆ **ナンセンス**

『へろへろおじさん』佐々木マキ／さく，福音館書店【E 9】

ひげを生やした小太りのおじさんが、家を出ようとする時階段から転げ落ちたり、ブタの大群の下敷きになったり…。おじさんが、運悪くへろへろになる一日が描かれています。気の毒なおじさんに次々と降りかかるありえない不運に、思わず笑ってしまう絵本です。

『よるのようふくやさん』穂高順也／文，寺島ゆか／絵，文溪堂【E 6】

夜になると開店する「よるのようふくやさん」には、へんてこなお客さんばかりやってきます。最初にやってきたニワトリを育てているおじさんは、ニワトリがもしネコに襲われても平気な服が欲しいと言います。そこで夜の洋服屋さんが取り出したのは、「ペリカンスーツ」でした。

『とんねるをぬけると』片山健／さく・え，福音館書店【E 7】

電車が、大勢の子供たちを乗せてカタンカタンと走ります。そして、トンネルをくぐり抜けると、子供たちが雪だるまに変身したり、サボテンに変身したり…。

トンネルをくぐる度に思いもよらないものに変身するので、ページをめくる楽しみがあります。

『すっぱりめがね』藤村賢志／作，教育画劇【E 7】

ぼくは不思議な「すっぱりめがね」を持っています。この「すっぱりめがね」をかけて物を見ると、物の断面が「すっぱり」見えるのです。

腕時計やピアノなど普段見ることができない物の内部を、緻密な絵で描いています。

◆ 本当の話

『6 この点：点字を発明したルイ・ブライユのおはなし』ジェン・ブライアント／文，ボリス・クリコフ／絵，日当陽子／訳，岩崎書店【289 7】

目の不自由な人が使う「点字」を作ったのは、実はフランスの15歳の少年でした。5歳の頃から目がまったく見えなくなったルイ・ブライユは、盲学校で出会った手で触って読むことができる暗号を活用できないかと考えます。

『クララ：300年前にはじめてヨーロッパを旅したサイのはなし』エミリー・アーノルド・マツカリー／作，よしいかずみ／訳，BL出版【E 7】

今から300年前、「サイ」はヨーロッパでは「幻のけもの」と信じられていました。オランダ出身のヴァン・デル・メール船長はサイのクララを大切に育て、共にヨーロッパ中を旅します。しかし、フランスのルイ15世にクララを見せたところ、ルイ15世はクララが欲しいと言い出します。

『サダムとせかいいち大きなワニ』松居友／文，ボン・ペレス／絵，今人舎【E 7】

フィリピンのミンダナオ島には湿原があり、大きなワニが住んでいます。そのことを元に描かれた絵本です。

島に住む少年サダムは、毎朝水牛に乗って仕事に出掛けます。ある日、湿原に激しい雨が降り、家が押し流されそうになったため、サダムは水牛に乗って避難します。

◆ 昔話・古典

『^{くわがんざん}金剛山のトラ：韓国の昔話』クォンジョンセン／再話，チョンスンガク／絵，かみやにじ／訳，福音館書店【E 7】

昔、ユボギという名前の男の子がいました。ユボギは、トラに襲われて死んだお父さんの敵を討つため、お父さんが得意だった弓の稽古に励みました。立派な若者に育ったユボギは、トラが住むという金剛山に向かいます。

朝鮮半島で最も愛されてきた昔話の一つです。

『ふしぎな銀の木：スリランカの昔話』シビル・ウェッタシンハ／再話・絵，松岡享子／訳，市川雅子／訳，福音館書店【E U】

王様が不思議な木の夢を見ました。それは、世にも美しい銀の木で、銀の花が咲き、銀の実がなっていました。自分の目でその木を見てみたくなった王様は、三人の王子に、銀の木を探し出すよう命じました。

シビル・ウェッタシンハの絵がアジア独特の雰囲気醸し出しています。

『あわてんぼうウサギ：ジャータカものがたり』中川素子／再話，バーサンスレン・ボロルマー／絵，小学館【E ナ】

お釈迦様の前世のお話です。あわてん坊で臆病なウサギが森で昼寝をしていると、「ドッダダッドーン！」と大きな音がしました。世界が壊れると思い込んだウサギは、死に物狂いで逃げ出します。そして、周りにいた動物たちも一斉に走り出し大騒ぎになりました。

児童図書

◆ 人

『やなせたかし：愛と勇気を子どもたちに』中野晴行／文，あかね書房【726 ナ】

「アンパンマン」を描いた漫画家・やなせたかしさんの伝記です。やなせさんがアンパンマンを描いたきっかけは、20歳の頃戦争で味わった体験です。空腹で食べるものが何もなかったことがその後の人生に影響を与え、「アンパンマン」が生まれたと語っています。

『けん玉道の師・藤原一生物語：「生きる力」は海をこえて』おちまさ子／著，PHP 研究所【798 オ】

けん玉を世界に広めた藤原一生さんの伝記です。児童文学作家だった藤原さんは、けん玉で遊ぶ子供が少ないことに気付き、そのすばらしさを子供達に広めたいと「日本けん玉協会」を作ります。

◆ ドキドキワクワク

『マウスさん一家とライオン』ジェームズ・ドーハティ／作，安藤紀子／訳，ロクリン社【Y933 ト】

ねずみのマウスさん一家がピクニックに行くと、ライオンのいびきが聞こえてきました。末っ子のチェダーがライオンめがけてどんぐりを投げつけると、ライオンは怒ってチェダーをつかまえました。

絵は黄土色と黒色の2色のみで描かれていて、ストーリーはイソップ物語の『ライオンとねずみ』に似ています。

『ねこまつりのしょうたいじょう』いとうみく／作，鈴木まもる／絵，金の星社【913 イ】

夏休みが終わる三日前。小学三年生の耕太は、アイスキャンデーの木の棒に「アタリ ネコマツリ ゴショウタイ」と書いてあるのを見つけました。早速受付の場所へ行くと、二百匹以上の猫が集まってきました。耕太が驚いていると、猫はとんでもないことを告げるのでした。

まるで日常の延長にあるような不思議な世界で、耕太が自然と成長していく様子が描かれています。

『ゆうかんな猫ミランダ』エレナー・エステイス／作，エドワード・アーディゾーニ／絵，津森優子／訳，岩波書店【933 エ】

昔々、ローマの街にミランダというお母さん猫がいました。ある時、街が火事になり、ミランダは娘のプンカを連れて逃げることにしました。その途中、置き去りにされた子猫をたくさん見つけたミランダは…。

細かく描きこまれたモノクロのペン画によるスケッチが、場面の雰囲気や緊張感を見事に表しています。